

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:32人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(H28.5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。



【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933

活動報告

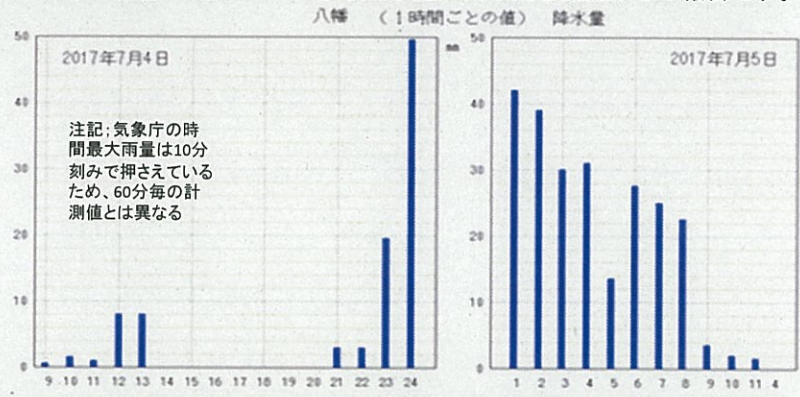
今年の異常降雨に伴う影響について

【報告者】 野村吉春

■はじめに 土木の専門家として参加しており再生工事後のモニタリングの一環として、今年2017年7月の異常降雨の出水に伴う、①再生地内の地形の変状 ②下流部への洪水等の影響の2点について、今回は主に土木的な観点からの報告です。

■異常降雨の発生について 今年2017年の7月5日に、気象庁の「八幡」の時間最大雨量として最大55.5mm/hを記録し、日雨量は7月4日～5日の2日間で合計335.5mmを記録。これは1976年以降「八幡」での3番目の値であり、八幡の自然再生事業を開始した2006年以降では「最大の異常降雨」であった。

■再生地への影響について 降雨の翌日7月6日午後に現地入りした結果、再生地の状況は、全般に想定範囲内であり、幸いにも大きな地形の変状はなかった。主な観察結果と土木的な考察は下表のとおり。



	観察結果	土木的な考察
①	上流部からの土砂流出が最上流堰堤手前に堆積しており、一部の導水路が埋まった	導水路の一部掘削を要するが、計画地より下流域への土砂の流出を低減できたことは、洪水の抑制に寄与したものと考えられる
②	上流部では最大出水時に、再生地内の川幅が約10～20mに及んだ痕跡を発見できた	今回は昭和30年代の状況を一部再現できたと言えるが、「10余年に一度という再現頻度をどう評価するか？」は議論の余地があるだろう
③	中流部への導水路が一部破堤し導水機能が低下	一部の導水路の経路変更にて対処できる
④	下流部の右岸側の沢が合流する箇所は、左岸側が一部が更に洗掘され、蛇行を呈している	一部の河川の洗掘や蛇行に伴って、自然の淵や瀬が形成されている点をむしろ評価したい
⑤	下流部の二川合流点への試験導水のパイプが流されたが、付近での越流は発生しなかった	昭和30年代には氾濫原を呈していた場所だが、最大級の出水時であっても再現しない？この点についても議論の余地があるだろう



①上流部への大量の堆積土砂



③取水堰のすぐ下で導水路が本川に流出



④堰の左岸が更に洗掘され淵や瀬を形成

■計画地以外への影響について 計画地より下流の一部区間で小規模な越流が見られたが、河川改修が未整備の区間であり、再生事業によってむしろ被害を抑制できたと考察している。一日も早い河川整備を要望したい。